

建国記念日の意義

下市 渡 敏 昭

二月十一日は建国記念日でした。

第二次世界大戦の終りまでは神話に基づいて神武天皇即位の日を記念して春日(紀元節)とし、各戸に国旗を掲げ、国民こそって祝ったものでした。

この紀元節は終戦により一旦廃止されましたが一九六六年「建国記念の日」として誕生しました。

日本の国は今や自由と平和の面では世界のトップクラスです。外国旅行をなさった方が祖國を説いて説も感ずることは日本の国に生れた喜びであります。

國家は先人の努力によつ

て礎かれ、過去、現在、未来と三つに亘る共同体として存続発展し、そして国民は自由であり、平和な幸福と安全を保つべく努力してまいります。

そう云う日本の國を身近に呼び起して自覚と認識にたち下ら、将軍に向つてお互一人一人が更に前進する決意を新たにすることこそ、建国記念日としての意義があるのではないかと思ひます。

祖先が礎いた私達の國を更に繁榮させ、子孫に継承したいものと思ひます。

大代地区PTA 合同研修会より

研修部 齊藤康子 二月十四日 幼小中PTA 合同研修会が開かれ、方をきせられた事を一言。

近頃親の權威が喪失したと云われ、その結果が家庭

内暴力や、非行に繋がっていることか、親子の繋がりが、家庭教育が如何に大事かと考へられます。

家庭教育は今も昔も変わっていないと思ひます。一口で云うなら「家庭円満」そのものではないでしょうか。家庭では両親が先を。子供は親の後姿を見て育ち、親は子供を見て共に育つてゆく。

私は、親子とは「合わせ鏡」であり、共に成長してゆきたいと思ひます。



婦人会重層活動 つくしがループ

下谷 尾崎三枝子

婦人会重層活動の年長組で、つくしがループとして活動しています。

省エネ、省資源は私達には小さい時から身につけていて、此の事が出発点となり、草苺にしまい込まれた物や古毛糸を持ち寄り、西せしたり、夏には冷たい飲みものやお菓子作り、熱中し手作りの喜びを味わい、孫に家族にと心は走るのでした。

時には材料を持ち寄り、即席にめいめいの専門の腕をふるい、会食したう、和やかに話し合った一日も有りました。

次は何時集まるのかと行たれて聞く、仲よしグループです。(年代別学習より)

郷土を知り

昔を知らう

悪の水物語

平安時代の頃、新屋村（現在の新屋）に仲間と丹田屋と云う百姓がおりました。丹田屋さんは以前から土地の境のことで長い間争いが続いていた。とうとう京都から検非違使と云う役人が臨地検査にやつてきました。

その折、たまたま若く美しい女性の水を汲む姿を見かけ、それに心を奪われた。検非違使は、早速その女性に結婚を申し込みました。が断やうれ、残念やる方なく京都に帰りました。悪妻の情に惚えられず、遂に病の床に付いてしまいました。

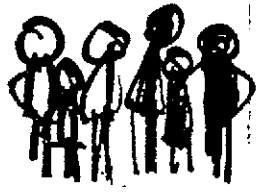
一族の者が心配の余り集つてそのわけを尋ねました。折、それが悪の病と分かる

早馬にて丹田屋に至りその時の美人を吟びよせ、果は末期の水を汲ませたと云う事です。

※検非違使が女性を見かけたと云う場所は現在山田部落、河野レナ子さん宅向いの山道の中程、地蔵尊が安置され、八代村青年団の手に依つて、史跡悪の水と石碑が建てられています。

※検非違使、この制度は弘仁年間に出来たと云われています。*仲間、鎌倉時代より有つたと云われます。

(記事 山本清助)



俳句 あすなろ句会

- 春寒や 建つめ杖う
- 古障子 立野草衣
- 大坊の 円花の艶
- 余寒晴 重元コト
- 日毎来る 雀未ぬ目や
- 余寒なほ 渡 綾子
- 病廓に 待つ刻長き
- 余寒かな 武田島子
- 一人居の 殊更広き
- 余寒かな 尾崎三枝子

三十五円葉書は

いかがですか！

郵政省では、お客様にできるだけ安い料金で葉書を利用して頂く為に、スポンサーの広告デザイン入りの「広告つき葉書」を売価三十五円で発売（年四回以上）しております。

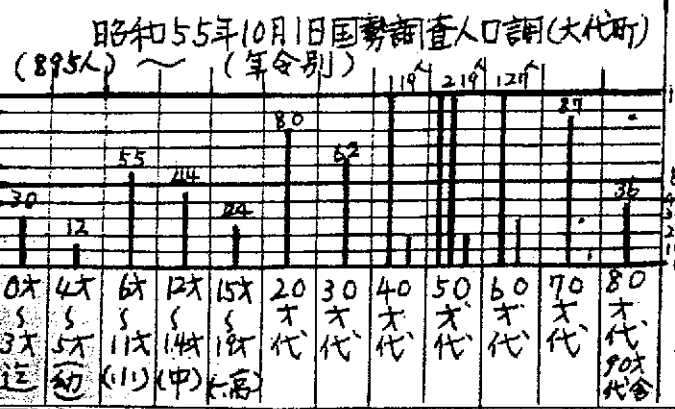
通常葉書より五円安く、

発行枚数に制限がありますので早めにお買求め下さい。二月期は二種類の葉書を発売中です。

(大塚郵便局)

国勢調査、まどめ

一昨年十月一日、国勢調査の結果が元の通り発表されました。(大代町のウ)



家庭教育学習へ

参加を

飯谷平世木老夫

町内の皆さん、最近の家
庭のあり方や、子供を取り
巻く社会の批判はなかなか
きびしいものがある事。
私達子供を持つ親は、こ
れらの批判を棄りこえ、心
身共に健全な子供を育てる
には一家庭でなく、町内全
体の課題として取りこむ事
が重要な事と想います。
そこで、幼小児をもつ親
が中心となり、子供だけで
なく親達も、幼時教育、家
庭の在り方などに付いて、
次の各領で学習しようとい
うことになりました。

町内の又兄の皆さん、多
数の御参加をお待ちして
います。
毎月一回(第一火曜夜)
場所 公民館

俳句

あすなう
句会

彼岸

- 鐘鳴るや 彼岸会修す
- 宿場跡 立野草衣
- 娘が訪うて櫃にどかどか
- 彼岸餅 重元コト
- 五十基の 墓抱く山や
- 彼岸晴 尾崎三枝子
- 鳴り渡る 鐘 堀波と
- 彼岸寺 武田島子
- 雨雲の 過ぎし高山
- 彼岸風 渡 あやこ



親子読書を

公民館

お母さんのお話しは、子
供の心の中でかすかに鳴り
ひびく、金の鈴です。
高令の椋鳩十先生は今尚
叫び続けていられます。
毎日10分、15分、よいの
です。お母さん、あなた
の舌で読んであげて下さい。
・お母さんが話してくれ
たおとぎばなし
・お母さんが歌ってくれ
た子守歌
・お母さんが読んでくれ
た絵本
幼ない子供の心の中に奥深
く秘められ、前意識と云
われています。
いつか大きくなった時に
再び蘇って来る……
おそろしく非行に走る様
人にはならないでしよう。
お父さんも時々読み手に
なつてあげて下さい。

(以上親子読書研修会
で要約)
おしらせ

現在八反田に有る簡易水
道揚水ポンプ倉庫と、竹間
教習棟宅向いにある同倉庫
に警報回転灯が、計ニヶ所
設置されます。
これは今年、小学校のフ
ール建設のため、高性能の
ポンプが導入され、水を揚
げる関係で、
本来水道は飲料水に供給
されるのが目的で、万一こ
の為に野水タンク内の限度
を越える(指水量)と警報
回転灯が作動する仕組みに
なるとの事です。工事終了後
は、発見の時は読方でも早
く、水道課、若しくは連絡
所(公民館)へ御しらせ下
さい。
関係者みなさんの御協力
を御願ひ致します。